

山中二男*： コツクパネウツギ—四国での変異と分布

Tsugiwo YAMANAKA*： Notes on *Abelia serrata* in Shikoku

ツクパネウツギ属 *Abelia* の植物は非常に変異が多く、その詳細はあらためて蛇足を要しないほど原 (1983) によってよくまとめられている。そのなかで、コツクパネウツギ *A. serrata* Sieb. et Zucc. はツクパネウツギ *A. spathulata* Sieb. et Zucc. のような地理的分化はないとされているが、それでも形態にかなりの変化がある。四国にはコツクパネウツギにいろいろの型が見られ、ことに蛇紋岩 (超塩基性岩) 地帯でいちじるしい。ここでは、今までの現地での観察と、およそ100か所で採集した約300枚の標本を見直した結果をまとめてみた。

分布 コツクパネウツギは、海岸に近い丘陵地帯から 1700 m をこす冷温帯の上部までひろく分布している。古い照葉樹林内には生じないが、そのほかの林とくに二次林では普通の植物であり、また日あたりや風あたりの強いところの低木林にもよく生える。蛇紋岩地帯に多いほか、石灰岩地帯でも低地のほか石立山、鳥形山、黒滝山など、高地でもまれでない。

低地の丘陵、ことにアカマツ林やコナラ林などには一般に var. *serrata* が多いが、ときに長さ 4-5 cm、幅 2-3 cm またはそれ以上になる大形の葉をもつものも見られる。これはキバナツクパネウツギ var. *buchwaldii* (Graeb.) Nakai とされてきた型で、石立山、土佐矢筈山、梶ヶ森、野鹿池山、子持権現山など、山地にはむしろこのほうが多い。ただ、中間形もきわめて普通で、これらを var. *serrata* にまとめる原 (1983) の見解はうなずける。

オニツクパネウツギ 葉の形や大きさ、毛のようすなど変化の多いコツクパネウツギのなかで、とくにはっきりした違いのあるのは北村 (1971) や原 (1983) が認めているオニツクパネウツギ var. *tomentosa* (Koidz.) Nakai である。これは四国南部の愛媛県清満(きよみつ)村 (現在は津島町) の標本で記載された。その後、三瓶町 (もとの双岩村) の蛇紋岩地帯でも知られ (山中 1959)、さらに近年になって高知県西部の十和村の梶ヶ谷山、古屋山および檜ヶ内山国有林に多いことがわかった。三瓶の標本では、葉は小さく長さ 1.5-1.8 cm、幅 0.5-0.7 cm であるが、十和では 2.0-3.5×(0.8-)1.0-1.5 cm でやや大きい。写真 (Fig. 1) のように、植物体に毛のいちじるしいのが特徴である。高知県西部と愛媛県南部との境の低山地には、ほかにも生育地があると思われるが、今までにはまだわかっていない。

* 高知大学 教育学部生物学教室。Biological Laboratory, Faculty of Education, Kochi University, Kochi.

蛇紋岩地帯 東海地方以西の蛇紋岩地帯には、ツクバネウツギまたはコックバネウツギの個体数が多いのが普通である。四国ではおもにコックバネウツギで、東赤石山、上兜山、西赤石山それに白髪山の冷温帯では多くはキバナツクバネウツギの型になる。500 m 内外以下の低地でも徳島県木沢村、高知県大豊町、本山町などには、葉の長さ 3.0-4.0 cm, 幅 1.5-2.0 cm のものが多い。本州では兵庫県北部の蛇紋岩地帯のものがヒロハツクバネウツギ f. *gymnocarpa* (Graebn.) Sugimoto とみなされるが、四国でも東赤石山近くの別子山村保土野には葉の長さ 5.0-5.5(-6.0) cm, 幅 3.0 cm に達するものがある。これらと区別できないものは、蛇紋岩地帯以外では高知県土佐市の標本もあるが、いわゆるキバナツクバネウツギとの区別は微妙である。

徳島県には木沢村のほか、神山町の蛇紋岩地帯が注目される。海拔 200-500 m の低山地には生育のよくないアカマツの林があり、アスナロ、コウヤミズキ、ウラジオイワガサ、ツゲなどが生じ、ササユリの狭葉になったジンリョウユヅリが見られる。ここには、ツクバネウツギ(ケツクバネウツギの型が多い)とコックバネウツギのほか、イワツクバネウツギもある。コックバネウツギの葉は 2.5-4.5×1.5-2.5 cm で菱状卵形、卵形または披針状卵形で、一見普通と異ならない (Fig. 2)。しかし、葉に細かい腺点が多く、とくに裏面はいちじるしく粘って、標本をつくる時紙にそのままくっついてし



Fig. 1. *Abelia serrata* var. *tomentosa*
(Tôwa, Kochi Pref.).

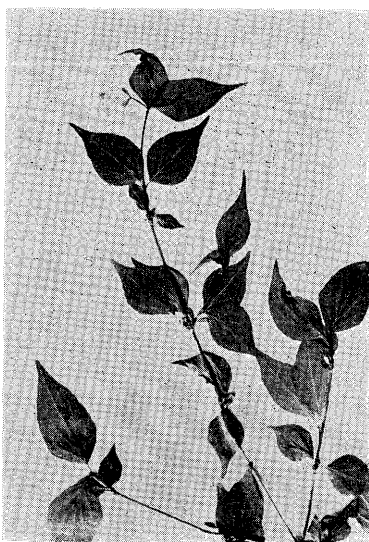


Fig. 2. *Abelia serrata* (Kamiyama,
Tokushima Pref.).

まうほどである。今までの観察では、この蛇紋岩地帯のコックバネウツギはすべて腺の多い型ばかりで、この性質をもつものは周辺にはなく、ほかの地域にも見られない。区別してとりあつかうべきかどうか問題はあるが、変わったものであることにはまちがいない。

高知県壽原町の越知面と四万川の蛇紋岩地帯にもコックバネウツギが少なくない。葉は 1.0-2.0(-3.0)×0.8-1.0 cm で、表面にはしばしば短毛が多く、裏面は淡色、葉縁にはときに鋸歯がめだち、また枝がつまって、エダウチコックバネウツギといわれる型にやや近い感じをあたえる (Fig. 3)。

葉の大きさからみて顕著なものは、ホソバコックバネウツギ *f. obspathulata* (Koidz.) Hara (Fig. 4) である。南国市、高知市、土佐山村、鏡村、伊野町および日高村では、これが蛇紋岩地帯の植生の主要な構成要素の一つになっていて、葉は 0.7-2.0×0.3-1.0 cm、葉面に毛は少なく、子房は無毛かまたは微毛がある。この地域にはこの型が最も多いが、やはり中間型や普通の形のコックバネウツギもある。たとえば、高知市上里には 1.7-2.5×0.7-1.0 cm の中間型があり、同市円行寺にもおなじところの標本で Fig. 5 のような変異の見られることがある。また、錦山など日高村にはむしろ普通のコックバネウツギが多い。



Fig. 3. *Abelia serrata* (Yusuhara, Kochi Pref.).



Fig. 4. *Abelia serrata f. obspathulata* (Kagami, Kochi Pref.).

反対に、小形の葉をつける個体は蛇紋岩地帯以外にもあって、高知市椎野峠、土佐山村都積などにはホソバコックパネウツギが少なくない。また、高知市筆山ではホソバコックパネウツギもあるが、コックパネウツギの一般的な形のものまで連続した変異が見られる。香川県小豆島の寒霞溪ではコックパネウツギが普通ながら、ときに $1.8-2.1 \times 0.6-0.7$ cm の葉のホソバコックパネウツギの型がある。

愛媛県砥部町の行道山も蛇紋岩地帯ではないが、普通の形のコックパネウツギのほか、 $1.2-1.8 \times 0.5-0.7$ cm の葉の小さいものがある。ただここでは高知市な

などの蛇紋岩地帯のものとは異なり、いずれも葉は表裏ともに毛が多く、子房や萼片にも毛がめだち、いくらかオニツクパネウツギの葉を小さくしたように見える個体がある。

葉が狭小になるのは乾燥変形 (xeromorphism) とも考えられるが、蛇紋岩地帯のものを25年間栽培してみたが、北村 (1971) の指摘とおなじように、形に変化はあらわれなかった。

まとめ 四国のコックパネウツギについて今までわかったことをまとめると、次のようになる。

変異の多いコックパネウツギには、四国でもさまざまな形のものが見られる。そのうち、とくにはっきりしているのはオニツクパネウツギで、これは蛇紋岩地帯にもまれにある。

その蛇紋岩地帯には、このほかとてにより、腺のきわめて多いものや、狭葉のホソバコックパネウツギが生じる。蛇紋岩地帯は、コックパネウツギの分化にもやはり無視できないものといえる。

終わりに、いろいろ有益なご教示をいただいた原寛先生にあつくお礼を申しあげる。

文 献

- Hara, H. 1983. *Abelia* R. Brown. A revision of Caprifoliaceae of Japan with reference to allied plants in other districts and the Adoxaceae. Ginkgoana 5: 102-127. 北村四郎 1971. コックパネウツギ. 原色日本植物図鑑 (北村四郎・村田源) 木本編 (I), 24-25. 山中二男 1959. 愛媛県八幡浜・三瓶地方の蛇紋岩地帯の

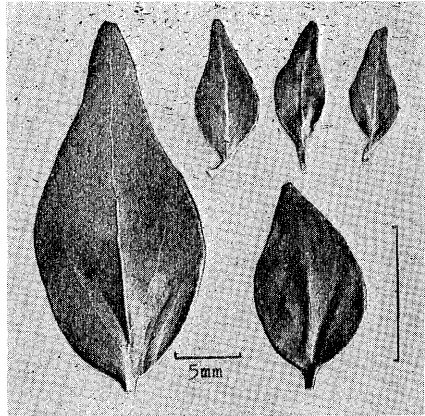


Fig. 5. Leaves of *Abelia serrata* in the serpentine area (Engyōji, Kochi City).

植生. 植物分類地理 18: 29-32.

Summary

Abelia serrata occurring on hills and mountains is very variable also in Shikoku. The plant treated as var. *tomentosa* which is covered densely with hairs is endemic in Kochi and Ehime Prefectures. Various forms are known in serpentine areas where *Abelia serrata* is one of the common species. For example, a race characterized by the leaves which are gland-dotted and viscid is found in Tokushima Prefecture. Besides, the abundant occurrence of f. *obspathulata* having small leaves in Kochi Prefecture is noticeable. These facts suggest the differentiation of *Abelia serrata* in serpentine areas.

○中井, 朝鮮森林植物編の複製本について (原 寛) Hiroshi HARA: A re-printed edition of Nakai, Flora Sylvatica Koreana with different pages from the original

中井猛之進先生の名著「朝鮮森林植物編」第1-22輯(1915-1939)は入手が困難であったので、国書刊行会が昭和51年これを9巻にまとめて複製出版したことは大変歓迎された。更に第10巻としてラテン名、和名、朝鮮名の総索引がつけられた。ところがこの本では、通例の複製本のように原著をそのまま複製したのではなくページなどがずれていることを榎山泰一氏が気付かれてすぐ注意して下さった。しかしまだ一般には知らない人も多いようなのでここに記録しておく。この複製本では各編の表紙が組みかえられ重要な出版年代が除かれてしまっていて、緒言も省かれ、目次は新しく組みかえられている。本文のページも原著とはずれて全部つけかえられており、各巻末には新しく索引がつけられた。一見便利のように見えるが、学問上の引用にはページがずれているので複製本から引用する訳にはゆかない。一例として原著の第21輯についてみると、その第22ページにでている Rafflesiales は、複製本の第9巻では第24ページにあって2ページずれており、原著の第156ページのメヤブマオになると複製本では第170ページと大きくずれてくる。折角出版された複製本がこのような混乱を起し易い形をとったことは誠に遺憾であり、今後この複製本を利用される方はこの点十分に注意して引用していただきたい。
(東京大学 総合研究資料館植物部門)